

工事完了 新しい時代へ



上：明るく見通せる大書庫（書架設置前）
下：新書架へすっきり収められた雑誌



明るく輝く館内

2021年春、明治文庫を含む区域の耐震改修工事が完了し、建物の引き渡しが行われました。新しく塗り直された壁と天井はLED照明を反射して白く輝き、館内全てが明るさに満ちています。

3月半ばには事務室も再び元の場所へと戻って参りました。退避していた資料や什器が次々に館内へ運び込まれ、それらを新たな場所へ設置、収納する日々が続いています。新設された集密書架に懐かしい資料が収まっていく様子に、無事戻って来られた安堵と実感が湧いてきま

す。偶然にも資料搬出入の作業は、往路・復路ともに同じ業者をお願いすることとなりましたが、昨年と同じく今年も天候に恵まれ、大変順調に進みました。昨年の搬出時の様子を知る担当者は、明るくなった館内に驚いたそうです。

最新集密書架を設置

今回、最も大きな書庫に設置したのは最新型の電動集密書架です。



大書庫に設置された電動集密書架

大型で重量のある新聞も安定して収納することができ、温湿度センサーで1年分の常時計測データを記録、ファイルに出力することが可能です。

また、ほとんどの書架の最上段には、地震の揺れを感じて自動的にバーが上ががり、資料の飛び出しを防ぐ装置を付けました。さらに、錦絵など一枚物を収める中性紙の保存箱を置く棚も設置しました。

バリアフリー対応進む

新規改修により、バリアフリーへの対応も進みました。ドライエリアへの

明治新聞雑誌文庫 ニューズレター

第八號
令和三年四月二十三日(金)
編集・発行
東京大学大学院法政学政治学研究所
附属近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫
〒113-0033
東京都文京区本郷七-1-1
電話 〇三-五八四-1327

年二回発行

URL
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>
Mail
lmeiji@j.u-tokyo.ac.jp
Twitter
[@UTokyo_LMeiji](https://twitter.com/UTokyo_LMeiji)

スロープ設置、「誰でもトイレ」や点字ブロックの設置に加え、本郷通り側から降りる階段に滑りにくいタイルが敷かれるなど、より多くの方に使いやすい設備となっています。

豊かな財産を得て 次の100年へ

昭和4年創立以来の大規模改修となった今回の耐震改修工事により、明治文庫には、資料の長期保管に適した環境が備え付けられました。

計画の開始から5年の準備期間と1年の退避を経て、再び元の場所に戻ってきた現在、今夏のリニューアルオープンに向けて館内の整備を進めております。

改修では多くの課題がありました。学内外の関係者や利用者、そして寄付者の皆様、そのほか多くの方のご助力をいただき、職員たちが知恵を出し合って資料を守り繋げていく最善の方法を考えたことは、次の100年に向けて大きな財産となりました。これからも明治新聞雑誌文庫をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



教育学部側からアプローチできるようになったスロープ

広がる繋がる

明治文庫

休館中も!

緊急事態宣言下で

オンラインデータベースが活躍

前号で、休館前に進めていたオンラインデータベースへの資料提供についてお知らせしましたが、これがコロナ禍で非常に役立つことになりました。

昨年4月から始まった緊急事態宣言、学内への立ち入り制限といった状況のなか、アクセス可能なデータベースについて、Twitterなどを通じて情報提供を続けたところ、多くの反応がありました。

劣化資料対策、そして休館中の資料提供を考えて積極的に進めてきたデジタル化でしたが、図らずもコロナ禍のなかで活用していたことになりました。

引き続き、オンラインデータの充実を目指し、「明探」データの整備やデジタル化の準備を進めています。一例として、「明探」データに宮武外骨蒐集資料の画像リンクをつける作業を進め、資料の検索から書誌事項の確認、画像の閲覧まで一連の流れで利用できるよう工夫しました。

『目次総覧』がオンラインに

レファレンスツールとして長く活用されている『東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』がオンラインで利

用可能になりました。

こちらは明治文庫所蔵資料から目次のみを集め、分野ごとにまとめて復刻した全150巻という大部の資料です。目次を通覧することで、当時の編集意図や目玉記事などがよく分かります。今回のオンライン化で、『目次総覧』の著者索引がテキスト検索可能になり、活用の可能性が大きく広がりました。学内の方は、Maruzen eBook Libraryからご利用いただけます。



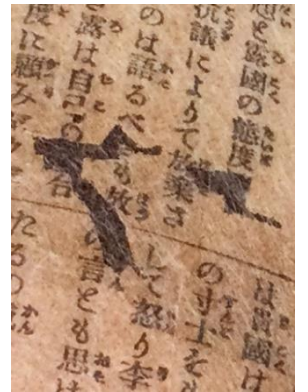
邦字新聞デジタル・コレクションに収録された『朝鮮新報』(スタンフォード大学フーヴァー研究所)

<https://hojishinbun.hoover.org/?l=ja>

スタンフォード大フーヴァー研究所で公開が進む「邦字新聞データベース」にも明治文庫資料がさらに追加され、『朝鮮新報』などが学内外からアクセス可能となっています。

資料補修、撮影次々進む

休館中も資料保存のための作業を進めています。休館前にピックアップして別置していた劣化資料の状態を精査し、補修や解体作業、保存箱作成、撮影を専門業者に依頼しました。



見えにくいほど薄い和紙で補修された新聞『萬歳』

新聞は、特にノドなど傷みが激しかった製本状態を解体、さらに紙面が損傷している箇所は非常に薄い和紙などで補修してもらいました。紙面がフラットになり、見やすい状態でのマイクロフィルム撮影が可能となりました。

撮影で代替物を作成することによって、閲覧時の資料への負担を減らすことができます。劣化が進んでいた牧野新聞も一昨年、全点マイクロフィルムによる撮影が完了しました。寄付金を活用しての資料整備が進み、長年の懸案が徐々に解決していつか、ご支援くださった皆さまへ深く御礼申し上げます。



大きな筆を持った主筆、文選・植字工、記者、販売人などが描かれた「浪華新聞」

2020年度新規購入資料

帝国議会開院式之図、浪華新聞

2020年に購入した新規図版資料2点をご紹介します。明治憲法発布、帝国議会に関わる一物資料は明治文庫でも蒐集に力を入れており、多くの図版を所蔵しています。

「帝国議会開院式之図」はあまり例を見ない縦型大判の新聞附録として、第一回開院式が精細に描かれた資料です。議事堂内の場景が現在の国会開会式とよく似ています。裏面には第一回議会の議員一覧が掲載されています。



「帝国議会開院式之図」(『浪華新聞』明治23年11月29日附録)

「浪華新聞」は新聞の宣伝に使用された錦絵と考えられ、新聞発行に関わる人々が戯画的に練り歩く姿を描いている面白い図版です。明治の新聞発行手順が描かれた資料としては、宮武外骨が『公私月報』9号で「改進黨の年始絵附録」を紹介しており、今回の錦絵も新聞発達史の一資料として大変興味深い資料です。これらは今後展示の機会にぜひご覧いただきたい図版です。